



# 肥料の種類と特徴

肥料は作物が生長するために必要なさまざまな化学成分を土壌に供給するための資材です。特に重要な成分は「窒素、リン酸、カリ」で「肥料の三要素」と呼ばれます。また、カルシウムなどが不足している土壌では作物が病気にかかりやすく、葉が枯れたりします。作物ごとに必要な肥料の種類・量・施肥方法が異なるので、「あぐりとぴっく」などを参考に施肥し適正な土づくりを行ってください。今回は代表的な肥料の種類と特徴をご紹介します。

## 牛フン堆肥

有機物を多く含んでいるためゆっくり分解し、土中に新鮮な空気が入りやすくなり、保水性・透水性を良くし団粒構造のふかふかな土へと土壌改良します。ただし、腐葉土などの食物繊維と比べると、含まれる食物繊維が少ないので土壌改良効果は薄いです。



## 消石灰

土壌改良効果にカルシウムが補給できる石灰で、酸性土壌からアルカリ性土壌に変えることができます。

溶けると強いアルカリ性をしめすので、施肥・は種・定植は約2週間開けることをお勧めします。散布後、ほっておくと石灰が固まり土壌改良効果が無くなるのですぐに鋤きこみます。



## 苦土セルカ2号

酸性土壌からアルカリ性土壌に変え土壌改良効果と同時に苦土が補給できる石灰です。上記の消石灰との違いは固まる心配が無いので散布してすぐに種子・苗の植え付けができます。



## 化成肥料

窒素・リン酸・カリの3要素のうち2つ以上の成分を含み、肥料成分のバランスが良いのが特徴です。本来は肥効がすぐ現れる速効性ですが、元肥にゆっくり効く緩効性タイプもあります。

3要素の成分量(窒素・リン酸・カリ)の数字の合計が15%以上30%未満のものを普通化成と呼び、園芸専用肥料・しきしま特1号など、30%以上のものを高度化成と呼び、あさひ化成・野菜専用化成250などがあります。



普通化成



高度化成

## BMようりん

主に元肥で使用し開花・結実を促進します。リン酸・ケイ酸・苦土・石灰がバランス良く含まれているので、土づくり肥料として麦・野菜・果樹・大豆などに幅広く使用されていますが、過剰すぎると植物の葉が赤紫色に変色したり開花・結実が少なく収量が上がらないので注意が必要です。



過剰に注意!